

# 2007年度前期の実施概要

システムデザイン学部 航空宇宙システム工学コース・教授  
福地 一

## はじめに

2007年度前期にFDの一環として実施された以下の5つの科目群に係る授業評価の全体概要を報告する。各科目群それぞれの分析結果については、(2)項以降を参照されたい。

- 基礎ゼミナール (以下「基礎ゼミ」)
- 実践英語 I (以下「実践英語」)
- 情報リテラシー実践 I (以下「情報リテラシ」)
- 都市教養プログラム (以下「都市教養」)
- 理工共通基礎科目 (以下「理工共通」)

## 実施の概要

本SE/TEの実施概要は以下の通りである。

- 実施主体: FD委員会・教務委員会、基礎教育部会
- 実施方法: 担当教員へ事前送付
- 実施・回収期間: 7月9日～7月24日の間に配布・実施・回収

(実践英語については、7月31日に配布・実施・回収)

表1には、2007年度前期の各科目群毎の履修登録学生数、授業担当教員数、授業数、SE及びTEの回収率を示す。実践英語のSE回収率は約93%と高く、SEプロセスの定着模様を読み取れる。ただし、都市教養のSE回収率が約50%、理工共通のSE回収率が約67%と他の回収率に比して低い。これは、これら科目群の履修人数が多く、SE実施時点での欠席者が多かったためではないかと推察される。これら科目群のSE回収率の向上策が今後の課題として挙げられる。概して、TE回収率はSE回収率に比べて高く、担当教員のSE/TE活動、ひいてはFD活動への意識の高まりや定着を見て取れる。

科目群	基礎ゼミ		実践英語		情報リテラシ		都市教養		理工共通	
	SE	TE	SE	TE	SE	TE	SE	TE	SE	TE
授業数	78		87		38		72		62	
履修登録者数 (SE)										
担当教員数 (TE)	1648	78	1694	87	1693	43	10525	104	5101	66
回収率 (%)	78.6	80.8	92.8	95.4	88.3	90.7	50.5	71.2	67	87.9

## SE/TE結果の全体分析

SE/TEの設問は、全科目群に共通の8問(後述)及び科目群独自の設問3問ないし4問(教員による自由設問1問[都市教養]を含む)から構成されている。以下に、全科目群共通8問の設問と以下の分析のために設定する設問略称を示す。

〈共通設問項目の略称一覧〉

質問項目

略称

問1 私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ。

態度

問2 授業の目的を意識しながら学習することができた。

意識

問3 教員の説明はわかりやすかった。

説明

問4 教員は学生の質問・意見に対して適切に対応していた。

対応

問5 授業時間以外で一週間に平均どのくらい、この授業に関連した学習をしましたか?

時間

問6 成績評価方法について十分な説明があった。

成績

問7 シラバスに目標として掲げられている知識や能力を獲得できた。

成果

問8 私はこの授業を受講して満足した。

満足

これらの共通設問に対する5段階評価の表現を以下に示す(括弧内は設問「時間」用)。

- 評価5 強くそう思う (4時間程度)
- 評価4 そう思う (3時間程度)
- 評価3 どちらともいえない (2時間程度)
- 評価2 そう思わない (1時間程度)
- 評価1 全くそう思わない (ほぼ0時間)

表2に、共通設問のSE/TE評価の全体平均値を科目群毎に示す。また、図1に、同じ設問に対するSEとTE

の関係を示す。これらの結果より以下の傾向が読み取れる。

項目	基礎ゼミ		実践英語		情報リテラシ		都市教養		理工共通	
	SE	TE	SE	TE	SE	TE	SE	TE	SE	TE
態度	3.82	3.81	3.36	3.65	3.85	3.72	3.27	3.68	3.41	3.4
意識	3.69	4.02	3.24	4.09	3.71	4.08	3.23	4.08	3.21	4.03
説明	3.67	3.92	3.31	4.06	3.34	3.97	3.5	4.14	3.03	4
対応	3.84	3.93	3.53	4.11	3.63	4.03	3.48	3.86	3.35	3.96
時間	1.98	2.44	1.97	2.73	1.61	1.82	1.35	1.79	1.89	2.31
成績	3.16	3.7	3.4	4.2	3.11	3.87	3.22	3.97	3.09	3.91
成果	3.41	3.6	3	3.61	3.37	3.67	3.12	3.68	3	3.53
満足	3.76	3.3	3.19	3.42	3.52	3.61	3.49	3.64	3.13	3.28

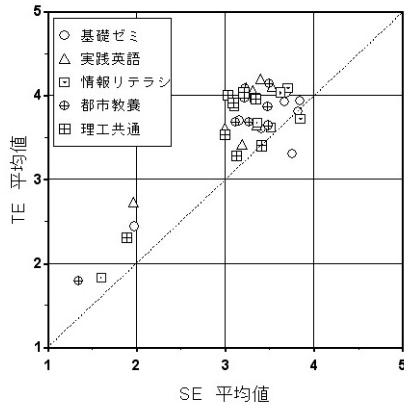


図1 SE及びTE平均値の比較

- ① 結果は平均値が1～3（「時間」）に分布するグループと、3～4（「時間」以外）に分布するグループに分けられるが、これは設問のカテゴリが異なる（前者は時間数、後者は評価指標）であるためである。
- ② 上記2つのグループいずれも  $TE > SE$  の傾向が見られる。すなわち教員は学生に比して高い評価をする傾向があり、各科目群及び設問に対して「同床異夢」の程度

をみることができる。例えば、理工共通、実践英語、都市教養については教員が高い評価をしても学生は低い評価をする設問もいくつか見られる。

- ③ 唯一、明確に  $TE < SE$  の結果となったのは、基礎ゼミの「満足」設問であり、教員が思っている以上に学生は満足している傾向が読み取れる。
- ④ 評価指標による設問項目（3～4に分布するグループ）を概観すると、基礎ゼミ及び情報リテラシの科目がSE、TEとも評価が高いことがわかる。また、評価指標範囲が3～4に分布することから、授業に対する皇帝的な教員・学生の姿勢を見ることができる。
- ⑤ 都市教養及び情報リテラシについては学生の学習時間（授業以外）が少ない傾向がある。この点については、授業において学習のためのテキストや資料等の明確な提示をすることによって改善されるのではないだろうか。

#### まとめ

FD活動の一環としてのSE/TE活動も定着してきていると思われる。概ねSE/TEとも評価指標が3～4に分布することから、授業に対する肯定的な教員・学生の姿勢を見ることができる。SEとTEの結果を比較すると、TEの評価の方がSEの評価より高くなる傾向が見られた。これらの結果については、可能な限り設問を同じにして、経年変化をふまえてより深く分析する必要がある。